

環境報告(要約版)(案)

会社名〇〇  
 経営責任者名〇〇  
 問合せ先:〇〇  
 など

当社の主な環境配慮の状況は以下のとおりです。

I. 基本的事項

対象組織の範囲 <sup>(注1)</sup>	<input type="checkbox"/> 連結	<input type="checkbox"/> 単体及び主要な子会社	<input type="checkbox"/> 単体
捕捉率 <sup>(注2)</sup>		%	%
範囲の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	
対象期間 <sup>(注3)</sup>	<input type="checkbox"/> 財務期間と一致	<input type="checkbox"/> 財務期間と一部相違	<input type="checkbox"/> その他
期間の変更の有無	<input type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし	

<sup>(注1)</sup> 主要な子会社名及び範囲の方針

<sup>(注2)</sup> 捕捉率の算定基準

<sup>(注3)</sup> 財務期間との差異

II. 重要な環境課題に関する事項

1. 重要な環境課題

<input type="checkbox"/> 気候変動	<input type="checkbox"/> 資源循環	<input type="checkbox"/> 生物多様性	<input type="checkbox"/> 廃棄物削減	<input type="checkbox"/> 水・大気汚染
<input type="checkbox"/> エネルギー	<input type="checkbox"/> 水資源利用	<input type="checkbox"/> 天然資源投入	<input type="checkbox"/> 化学物質管理	<input type="checkbox"/> その他

2. 背景情報

①収益獲得機会に関する背景情報

--

②ビジネスリスクに関する背景情報

--

III. 重要な環境課題に関する当年度の対応状況 (3~5程度を想定)

※KPI等(3年分)の表、算定基準、算定式、係数等、報告セグメント別の環境負荷量などは【参考】に記載。

重要な環境課題				
当年度における計画及び取組状況				
環境負荷量(総量)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
環境負荷量(原単位)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
財務影響等				
結果の分析・評価及び次年度における取組				

重要な環境課題				
当年度における計画及び取組状況				
環境負荷量(総量)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
環境負荷量(原単位)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
財務影響等				
結果の分析・評価及び次年度における取組				

重要な環境課題				
当年度における計画及び取組状況				
環境負荷量(総量)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
環境負荷量(原単位)	計画	実績	<input type="checkbox"/> 第三者審査	中期目標
財務影響等				

結果の分析・評価  
及び次年度におけ  
る取組

#### IV. 組織体制及びガバナンスの状況

##### (1)環境配慮経営の組織体制等

最高責任者、委員会等の役割、委員会の構成人員(外部・女性比率など)、開催頻度、他の委員会との連携状況、重要な課題への対応状況など。組織体制等は【参考】にて図示。

##### (2)環境に関する規制等への遵守状況

違反の有無及びその対策

#### V. ステークホルダーへの対応状況

各ステークホルダーからの要請・期待の内容とそれらへの対応状況(経営へのフィードバックなど)

#### VI. バリューチェーンにおける環境配慮等の取組状況

##### (1)グリーン調達取組状況

CSR 調達を含む。重要な課題に関連する要求内容、実施割合等

##### (2)製品・商品・サービス等による環境負荷低減

新規に開発した環境配慮型製品等の概要など。具体的内容は【参考】にて図示。

#### VII. その他の事項

(以下については、環境報告書等を参照することも可能です。ただし、環境報告を作成していない場合や当年度に新たな事象の発生や変更があった場合には、該当する事項を記載して下さい。)

##### 1. 経営者によるコミットメント

現状認識や目標・取組の明言等

##### 2. 環境配慮の方針、ビジョン及び戦略

中長期ビジョンと戦略等

3. 組織体制及びガバナンスの状況

(1)環境監査及び環境教育

実施概要等

(2)災害事故等への対応状況

推定される災害の程度とその対応状況等

4. 社会的側面の取組状況

人権、労働等への対応が記載されている部分の参照など

5. 後発事象

決算日後の事象の概要。

【参考】

(環境負荷量の時系列一覧)

KPI等(3年分)の表

KPI 等	○年度	○年度	○年度	備考

※経営における環境配慮の取組を理解するために必要な数値情報の一覧。KPIについては、明記。

(数値情報に関する補足情報)

算定基準、算定式、係数等、報告セグメント別の環境負荷量など

(組織体制及びガバナンス)

組織体制等の図(委員会等の役割、最高責任者、責任と権限の状況など)

(環境配慮製品の研究開発等)

新規に開発した環境配慮型製品等の概要、取引先との協働取組など

## 環境情報開示に係るヒアリングより(速報)

有識者、評価機関、金融機関、認証機関、投資会社等へのヒアリングを行い、現在とりまとめ中。  
以下で代表的なご意見を示す。

### <既存の開示プラットフォームの利用>

- ただIT化し集めるだけなのであれば有用でない。誰も使わない。
- 投資家が利用する既存のプラットフォームに追加してもらう形が有効。

### <重要な開示項目に関する簡易フォーマットによる開示>

- 何を目的に、誰向けに、どこに載せるのか、明白にすべき。
- 背景情報などに経営者の指針が見えれば投資情報としては有用。
- フォーマットの評価手法も開発すべき。
- 企業にとっては開示のインセンティブが必要。競合に有利になってしまうような情報の開示については留意が必要。
- なくてもいいような項目は不要。例えばKPIを3つ選択してもらい、その業務との関連、取組、メリット、方向と過去数年の推移を示してもらえばいい。
- 重要なのはリスクと成長性にかかること。ただし成長性にかかることは記入が難しい。
- 中小企業にはより詳しい項目を聞いたほうが親切。また海外子会社など連結先の情報も取得する必要がある。
- 企業にとっては簡単なフォーマットでも情報収集に相応の負担がかかる。
- 製造業はデータを持っているが、サービス業はデータをあまり収集していない傾向。